



新年のごあいさつ



蒲郡市長
稲葉正吉

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、健やかな新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日ごろから市政に対するご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

私が蒲郡市長に就任し、初めての新年を迎えることとなりますが、気持ちも新たに、より良い蒲郡市の実現のために、いっそう気を引き締めてまいり所存です。

昨年を振り返りますと、千年に一度とも言われる未曾有の大災害・東日本大震災に見舞われ、まさしく激動の一年でありました。皆さまの心にも深く刻まれる年となったことと思います。本年は国難ともいえるこの大災害からの復興を遂げ、大きな飛躍の年となりますよう心より祈念いたします。

また、東日本大震災に追い打ちをかけるように、ヨーロッパの金融不安に端を発する世界経済の低迷、歴史的な円高・株安、タイの大洪水等々が起き、当市の主要な産業である観光業、繊維産業などにも大きな影響を及ぼし、非常に厳しい一年であったと思います。

本年は、私の基本政策であります人口増につながるまちづくりを目指し、「堅実な行財政運営」「安心してお産・子育てのできる町づくり」「働く場の確保・産業の振興」「病院の安定経営・住みやすい町づくり」の4項目を柱とし、フットワーク良く、スピード感を持ち、現場主義で精いっぱい取り組んでまいります。

まず、産業の振興を担う社会基盤整備の面からは、国道23号蒲郡バイパスと国道247号中央バイパスの早期開通、三河港蒲郡地区のマイナス11m岸壁の早期完成などを推進するとともに、高齢者や学生の貴重な交通手段であり、貴重な社会基盤でもある名鉄西尾・蒲郡線の存続のため、西尾市、愛知県とも協力し、市民まるごと赤い電車応援団や沿線住民の方と連携して利用促進に努めてまいります。

観光の面からは、JR蒲郡駅コンコース西の観光交流センターの整備を進めてまいります。完成の暁には、蒲郡の観光PR、物産展示などが行われ、さらなる賑わいが生まれることと期待しております。

そして、本年は蒲郡の夏の風物詩となり、市民の皆さまに親しまれている「蒲郡まつり」が30周年を迎えます。記念の年の「蒲郡まつり」を盛大に開催いたしますので、市民の皆さま、どうぞご期待ください。

最後になりますが、市民の皆さまには、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げるとともに、ますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。